

「母親のみの相談会で発達障害傾向の次男と家族とのコミュニケーションが改善され、それを機に母、父の相談会に展開していったケース」

高島亜希代 日本ホメオパシーセンター大阪本部 認定ホメオパス No.1031

【要約】

発達障害傾向のある大学生の次男の予防接種の害出し、引きこもり、コミュニケーション下手、奇声を発するなどの改善を主訴に母親のみで相談会を開始。

レメディを取る習慣づけから始め、身体的な症状が改善するとともに突然キレたり狂気じみた行動が減り、自分の気持ちを言葉で伝えるなど自発的な行動が増え精神的に大きく成長。その息子の様子から、母親自身も「自分に向き合いたい」と相談会を開始すると、親子関係がより進展して相乗効果があった。現在は父親も相談会に来るようになり、ご家族でどんどん変化を遂げていっている。

【目的ならびに主訴】

家族に発達障害、精神疾患傾向があり困り果てているが本人が相談会に来たがらないことは多い。本人不在でも家族との対話を行うことで相談会が成立し、改善と効果が見え、更にその家族全体の変化（父、母の相談会）につながっていく好例であると思い提出しました。

19歳 男性

主訴：

① アトピー性皮膚炎

現在は軽度だが幼児期から。悪化するとステロイド軟膏剤を常用

① 奇声を発する

予定と違う、思い通りにいかないことがあるとパニックになり、大声で奇声を発する。

② 双方向のコミュニケーションができない

③ 夜中に食事をしたり偏食。とにかく小麦食品を大量に食べたがる。

④ 引きこもり、昼夜逆転

【経緯あるいはタイムライン】

0～1歳 BCG、ポリオ、麻疹、三種混合ワクチン

2歳 腕に湿疹 ステロイド軟膏塗布 口数が少ない、ひとり遊びが好き。

小学生 頻繁に中耳炎。抗生剤を内服。

中学生 学校の担任や野球のコーチに不当な扱いを受け精神的に憂鬱になる。中2の冬に

万引きをし、担任の対応をきっかけに不登校。親子でカウンセリングを受け、その時に「発達障害があるのでは」と言われる。

高校生 普通校に進学。ストレスから月に数日休む。帯状疱疹で1週間入院。

大学入学 新型コロナウイルスの流行で大学は休校及び、講義がオンライン化。ほぼ自宅から出ることがないが、講義は受けている様子。昼夜逆転の生活になっており偏食。家族とコミュニケーションが取れない。奇声を発する。

【手法あるいはレメディー選択】

1回目 2021年8月5日

クライアント本人が対面での会話が非常に苦手ということで、母親のみで相談会。

サポートリンクチャーを取る習慣づけから始め、通常のZENメソッドに切り替えていくこと。本人が来られることを目指して開始。

まず生活習慣、食生活の改善（偏食、便秘）と狂気じみた行動の改善を試みた。

2回の相談会で身体、精神症状の改善とリンクチャーをとる習慣ができてきたので、3回目よりLMポテンシーを用いたZENメソッドに切り替えた。

LM開始とともに、キレたり、奇声を発したりすることがさらに減った。

相談会では、彼が言葉で表現できない時に『本当はどのように伝えたかったのだろうか?』という理解が深まるような対話を母親に心掛けた。

経過とともにTBRでの症状のルーブリック選択と

「自分は神のような凄い人間でないといけない」との発言。

狂気じみた奇声、大声や行動からVerat.

母に助言されると非難されたように感じ、キレルのは「伝わらない。認められない。『悲しさ』なのでは?」ということからIgn.を選択するに至った。

レメディー

3回目 2021年12月3日～8回目 2022年8月5日

朝 Carb-v. Ph-ac. Sil. Plat. (LM)

昼: Carc. (LM)

夜: Verat. Lyc. Ign. (LM)

臓器サポート

Φサポート腸内細菌. 2回

Φサポート肝臓. Φサポート水銀.

ジェモエッセンス イタドリ オオバヤシャブシ チャノキ ハルジオン

K-Shiro. Daisen-w. 6C Kuzury-w. 30C Herp -z .30C Ring-w.30C Onkokin.

【結果】

水虫などの皮膚症状改善。

過度の小麦食。偏食、便秘。夜中に食事をする 改善。

家族に自分の気持ちをゆっくりでも話せるようになり、家族との関係改善。

キレたり、奇声、大声を発すること激減。

昼夜逆転 改善。

大学の対面講義は「しんどいなあ」と言いながらも問題なく通学できている。

友人と食事に行くことも増えた。

クライアントの成長を見て、母親が「自分のために」と母親の相談会が開始。

息子の相談会では聞ききれなかった母親の生い立ち、インナーチャイルドに向き合う過程を経ることで母子が向き合わざるを得ない事件が発生した。

クライアントは母に挑戦するように、奇声、暴言を近所に向かって叫んだが、母がこれまでとは違う毅然とした対応を見せたことでクライアントもまた、互いに自立した前向きな対話、行動が取れた。

その後さらに、自分に合った内容のアルバイトを探して挑戦中。対人関係面でも大きな成長が見えた。

父親も相談会に来るようになり、家族でどんどん変化を遂げていっている。

【考察】

クライアント本人のいない相談会だったが、母親の姉が向精神薬の害で夭折していることから、真摯な息子への思い、観察もあり、身体的な症状から順調よく改善した。

そこで、クライアントがキレたり奇声を発する「真意は何か？」と、母親とクライアントの理解、信頼関係が深められるような言葉がけや提案をした。相談会での内容を母親は真摯に素直に実行しクライアントも最初は半信半疑だったものの、レメディを素直に飲んでくれた。

ひとえに、母親やクライアントが根本的に持っている「素直さ」が本ケースの要所である。予防接種や薬の害ではないかと思われる症状ではあるが、ホメオパスとなされる対話に真摯に向き合い、実行する姿勢はレメディ選択や結果をより効果的にし、大きな変化を生むのだと思わされるケースであった。

レメディについては、Verat.が奇声や大声、狂気じみた攻撃的な発達障害、精神疾患傾向によく合致する実感があった。

また、Verat.とともに Ign.の選択でより精神が安定したが、発達障害児や精神疾患患者の奥底には「悲しさ」があるのではないだろうか、今後も検討したい。

昨今、引きこもりや発達障害、精神疾患の家族のケアを希望され相談会に来る方が多い。本人と対話できることが望ましいが、辛い状況にある家族を相談会を通して支えることでも

十分な効果が得られるであろう、という希望を提示してくれるケースであった。

余談。コロナ禍とは言われるが、対人面で苦手なことの多いこのクライアントにはコロナ対応で大学の講義がオンライン参加でも出席扱いになったことで救われたところがある。「これまでの大学の在り方ではうちの息子は単位取得できずにいたと思う」と仰っていた。